

かごしま
あいら
市議会だより

No.22 12月定例会
平成28年 1月31日発行

報告	報告	補正	挨拶
配信開始	議会と語る会	火葬場	進めます
インターネット		1467万円	今年も議会改革
20	18	5	2

今年も 議会改革進めます

新年、
明けまして
おめでとう
ございます。

始良市議会 議長
湯之原 一郎

年頭に当たり、本年が市民の皆さまにとりまして、より良き一年となりますよう心からお祈りいたします。議会議員一同、始良市政の一翼を担う議会の役割を自覚し、市民の皆さまの代表として努力を惜しまぬ覚悟です。本年も何卒よろしく願い申し上げます。

始良市が誕生して、早6年の年月が経とうとしております。この間、様々な変遷がありました。特筆すべきは県下19市中でも数少ない、人口が増加し住みやすさを兼ね

備えた市として、注目を集めていることではないでしょうか。本年春には大型商業施設のオープンなどもあり、さらに人の流れに大きな変化が生まれるものと思います。

一方で、少子高齢化の波に飲み込まれている地域のある事も、厳然たる事実として目を逸らすことはできません。議会の役割として、目につき難いところへの気配りが、今後一層大切になってくるものと考えております。昨年は議会にとりましても、大きな変革の年となりました。「議会基本条例」に則り、様々な議

会改革を進めております。多くの市民の皆さまに、議会がもっと身近で情報が伝わりやすくなるように、インターネット配信による本会議の中継を始めたこともその一つです。また、以前から実施しています「議会と語る会（議会報告会）」では、プロジェクトを使ってよりわかりやすい説明を心掛けるなど、回を重ねるごとに進化を遂げております。

さらに3つの常任委員会では、市政の課題について関係する市民や団体との意見交換の場を持ち、課題解決へ向けて努力を重ねております。

議会改革はまだ、緒に就いたばかりです。市民の皆さまの負託にしっかりと応え、信頼される議会を目指して、今後とも努力を重ねてまいります。皆さまのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。新年を迎えてのご挨拶とさせていただきます。

市民に開かれた議会

現在、議会で進めている議会改革の原点になっているのが、議会基本条例です。この条例では、開かれた議会」を1つの目標像にしています。

この目標像を具現化すべく、議会では「議会と語る会」をはじめ、委員会ごとに市民の皆さまと直接対話ができる場を積極的に設けてきました。さらに昨年12月議会からは本会議の様子をライブと録画でみることができるインターネット中継も始まりました。

これによりネット環境があれば、家でも外出先でも実際の声や表情を通して議会の様子を確認できるようになりました。



▲PCでもスマホでも見られます



賀正

わかりやすい議会

積極的な情報公開で「開かれた議会」を目指すのは当然のこと、それをわかりやすく伝える説明力も今の議会には求められています。

このため、「議会と語る会」ではスライドショーで写真をふんだんに用いた説明に取り組んでいます。道路や施設の改修などの状況がわかりやすくなったと評価をいただいています。

また、昨年の9月議会からは本会議場に大型モニターを3台設置しました。質問者や答弁者が映し出されたり、説明資料を映して傍聴しやすくなりました。



▲写真を用いた議会と語る会



▲本会議場の大型モニター

議論深める議会

旧町時代からこれまで、委員会ではまず質疑があり、その後討論、採決という流れが定型化していました。

それではややもすると個人の考えに頼りすぎた審査になってしまいうおそれもありました。

このため、昨年には質疑の後に、「議員間討論」の時間を設け、各人の考えを出し合った上で、合意形成を図ったり、少数意見の確認をしています。

こうした取組みにより、議会として取り上げるべきテーマ（論点）が明確になり、より深い審査が行われるようになりました。

改革進める議会

このように始良市議会では議会基本条例の制定を皮切りに、定数削減、情報公開、審査方法の見直しなど、まずは自分たちでできることから矢継ぎ早に議会改革に取り組んできました。

一方で今、地方議会には厳しい目が向けられて

いることも事実です。このため、私たちはまず一人ひとりがこの職責を深く自覚すべく、議員倫理条例の制定を検討しています。

私たちの議会改革が終わることはありません。今年も前へ前へと改革を進めて参ります。



▲定数が30人から24人に、委員会が4から3になりましたが、議員一丸となって取り組んでいます

補正予算 2億4079万円

予算総額 290億369万円



▲ さあ今日もがんばろう!!障がい者支援施設「さちかぜ」

12月定例会（第4回定例会）は、11月20日から12月17日までの28日間の会期で開かれました。

平成27年度一般会計・特別会計補正予算、条例改正、陳情などを審査しました。

その結果、議案17件を原案可決し、陳情1件を不採択、発議（懲罰の件）1件を否決としました。

補正予算

歳出の主なものは、

・あいら斎場整備のため
の追加経費

・「鹿児島マラソン」お
もてなしの経費

・用排水路の復旧工事費

・選挙人名簿システム等
の改修委託料

・障害者自立支援給付費

・障害児通所支援給付費
などです。

障害者、障害児支援給
付費などの扶助費につい
ては年々増加傾向で、今
回補正額の76%を占めて
います。

主な要因として支援事
業所の増加に伴い、障が
い者や障がい児が利用し
やすい環境が整ったこと
があげられます。

また、発達障害の概念
が広がり、障がいを疑わ
れる子どもが増加傾向に

あることもその要因です。
これら補正予算は2億
4079万円の追加であ
り、補正後の歳入歳出予
算総額は290億369
万円です。

この財源は、国庫支出
金、県支出金、繰越金な
どです。

財産の無償譲渡

平成27年12月1日に廃
校になった旧大山小学校
の建物を加治木産業株式
に無償で譲渡するものです。
（詳細は6ページ）

条例の一部改正

みさと台団地の汚水処
理施設を新たに市の管理
する処理施設に加えるた
めの条例の一部改正です。
（詳細は7ページ）

第6回語る会開催

第6回議会で語る会
（始良市議会報告会）を、
帖佐小学校体育館、下久
徳地区いきいき交流セン
ター、加治木総合支所多
目的ホールで開催しまし
た。

（詳細は18・19ページ）

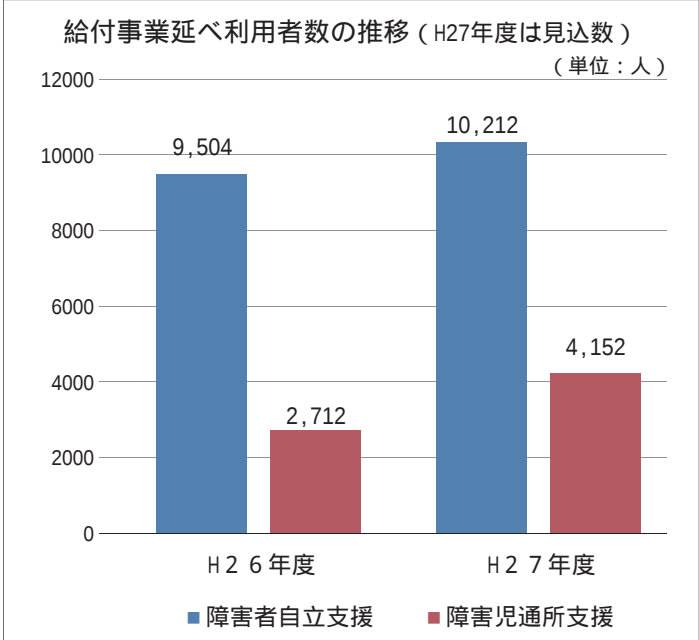
可決
賛成23名
反対0名



県内一暮らしやすいまち「始良市」をめざして
身近な事業をピックアップしました。

障害者自立支援給付事業 8900万円
質疑 大きな補正を組むのは当初予算の見込みが甘かったのか、それとも決算見込みに際して更に増えてきたのか。
答弁 26年10月の実績で1か月当り利用者数を792人の9700万円計上したが、今年10月請求分では、1か月当り851人の1億440万円を給付し7・5%以上の増である。

質疑 利用者が増えたのか、事業所開設が増えたのか。
答弁 就労継続支援A型事業所は25年以前始良市にはゼロ。26年に6事業所新設された。また、雇用契約のない就労継続支援B型事業所は市内に11あり、そのうち26年に2事業所新設されている。障害者が利用しやすい環境が整ってきていると思われる。



障害児通所支援事業 9400万円
利用者の増で扶助費不足額を見込んだ増額補正。
質疑 増額の理由は。
答弁 1か月当り利用者数を226人の1500万円計上したが、今年10月請求分では、1か月当り346人の2280万円を給付し52%以上の増です。

観光PR事業費 50万円
鹿児島マラソンに参加するランナーのおもてなしで横断幕や、応援グッズ作成など。
質疑 駐車場対策と始良市の経済効果を問う。
答弁 一般応援者は、250台駐車できる白銀公園を活用。当日は2局でテレビ中継が行われ、約5時間の放映で約800万円のPR効果があると考えている

内訳（法面伐採237万円・造成工事1230万円）
質疑 かなりの増額だがこの追加予算はどういう根拠で積算したのか。
答弁 現存する10m等高線の図面で行ったため見積もりの食い違いが生じた。
論点 当初工事請負費1900万円の予算を組みながらも1230万円もの増額予算を組んできたことから、今後は机上の予算見積もりだけでなく、精度を高めるべくあらゆる

保健衛生費・火葬場費 1467万円



▲ 今回崩落した三大字の用排水路

現年耕地災害復旧費 291万円
蒲生町下久徳の幹線用排水路のうちトンネル部分の天端崩落の復旧工事
質疑 今回の崩落箇所の隣を平成22年度に工事しているが、その際総合的に調査対策をすべきだったのではないかと。
答弁 今後は県とも協議し「保全合理化事業」を活用して調査を計画している。三大字土地改良区の水路約6kmと加治木の木田幹線水路の調査を考えている。

陳情

1件

市道の拡幅を求める 陳情

不採択

陳情者 原田 幸

陳情の趣旨
市道にかかる橋の拡幅
を求めるものです。
委員会審査
陳情者は、地権者の意
向を確認される等、努力
されていますが、地元の
合意形成がなければ難し
い問題です。今後、地元
同意の条件等を整え再度
陳情することも可能であ
り、今回は不採択としま
した。

請願・陳情は 誰でも提出 できます

陳情書の様式
○宛先 市議会議長
○提出者の住所
氏名
電話番号
提出年月日
(連名の場合、代表者)
請願書の様式
○様式は陳情と同じです
が、紹介議員が必要
です。

提出期限
○定例会開会の8日前ま
でに、議会事務局へ
提出してください。
様式は始良市のホーム
ページにも掲載され
ています。

条例

みさと台 污水处理施設 市へ移管

みさと台団地は、昭和
59年に開発され、31年経
過しています。平成24年
6月、移管に向けた事前
調査申請書が提出され、
みさと台衛生管理組合と
の協議が整ったことに伴
い、本市の地域下水処理
区域に加え、当該自治会

で運用されている料金を
市の料金体系として引き
継ぐものです。
質疑 みさと台の処理能
力、施設の更新に必要な
基金はどのくらいか。
答弁 計画処理人口は2
100人で基金は現在3
千万円です。耐用年数の

終期が18年後として約1
億円の基金となる。改修
工事費は、国・県の補助
事業を導入し、約2億3
千万円と考えている。

可決

賛成23名
反対0名



▲みさと台污水处理施設

議 発

発言についての動議

第3回定例会最終本会
議(10月9日)において、
堂森議員の発言が総務委
員会並びに総務委員長に
対する侮辱的な発言だと
し、神村総務委員長ほか
3名の議員から懲罰動議
が出されました。このこ
とを受け、同日、懲罰特
別委員会が設置され、休
会中に審査が行われまし
た。

懲罰とは

用語集

議会の自律権に基づき、
議会の紀律と品位を保持す
るために、議会の秩序を乱
した議員に対して議会が科
す制裁のことをいう。
議会対議員という特殊な
身分関係の秩序を維持する
ために科せられる制裁であ
る点で刑罰と異なり、公務
員の懲戒と性質は同じ。

追跡

蒲生 大山小学校

12月1日廃校 その後

明治35年創立

大山小学校は、明治35年当時、43名の児童がおりました。

児童数が減少

平成19年在学児童が減少し1名となりました。その後、大山地区から廃校の陳情が提出され平成26年12月市議会で採択されました。

加治木産業へ 無償譲渡

平成27年12月1日付けで廃校となった旧大山小学校の建物は、加治木産業(株)に無償譲渡されます。譲渡する建物は、鉄筋コ



▲昭和63年当時の子どもたち

ンクリート造2階建て校舎、木造平屋建て屋内運動場、木造平屋建て教職員住宅2棟の計4棟です。今回の譲渡により、工場及び事務所として活用されることで、遊休資産の有効活用と新規雇用の計画もあり、地域の活性化につながると期待されています。今後、優先的な雇用の確保、地域の防災対策の推進、地域防災への積極的な協力などの地域貢献協定を締結する予定です。

なお、土地については、土地賃貸借契約を締結して、有償で貸付けとなります。

企業誘致が優先 していないか？

質疑 学校が廃校になってから、12月4日の仮契約に至る期間が短かった。他に応募はなかったのか
答弁 加治木産業から進出の要望が先にあり、市としてもこの機会を逃すと、他に企業が進出する保証もないと判断した。他に応募はなかった。地元の意向は、優先的な雇用の確保等、地域に活気が出るので企業が進出することを希望されている。
質疑 学校は「地域のよるところ」となっていたと思うが、企業誘致が優先していなかったか。
答弁 学校が地域のよるところとなっていたこと



▲議会と大山地区との意見交換会

については、今後、地域貢献協定を結ぶようにしている。その中で地域との連携、例えば地域運動会を企業と一緒に実施するなどがある。地元雇用、地域連携、防災・防災、避難場所の確保など、企業が地域貢献することで心配はないと考えている。

その他の質疑で明らかになったこと

- ・土地の契約は有償で約100万円、1年契約
- ・従業員数は25人の予定
- ・創業は28年6月の予定など

賛成討論 田口 幸一

建物工場及び事務所として活用され、遊休資産の有効活用が図られ、雇用の計画があり、この譲渡により大山地区の活性化が図られる。防災対策の推進、地域防災への協力を盛り込んだ地域貢献協定が締結される。



▲譲渡される校舎



和田里志議員

利活用と具体的取組み

市長 / 積極的に進める

財産管理

和田 財政運営上の観点から、財産の性質によって売却処分・有償貸付・利活用を行うべきと考えるが、具体的取組みについて問う。

市長 公有財産の処分及び有効活用については、管理委員会に意見を聴き審議してもらい実務を進



▲用途廃止が決定しているにも関わらず、残っている市営住宅

めている。

新たな財源確保の観点から、処分と有効活用を積極的に進めて参りたい。

特別職の加配

市長 / 有効であることは認識

和田 トップマネジメント機能の強化とスピードある行政施策のために特別職を加配する考えは。市長 市として一体感の醸成も進み、その風格も備えつつある。

市政の安定と質の高い住民サービスの実現、継続、更なる高みを目指すためには一層の精進が必

要で、副市長を2人体制にし、より専門性を発揮させることが有効であることは認識している。

その他の質問

○ 生ごみ収集と堆肥化

問う

一般質問

子ども医療費

中学校三年まで助成拡大

市長 / 導入する方向で予算化



湯川逸郎議員

湯川 子育て支援の一環として、子どもの健康保持と健やかな育成を図るうえで、子どもの医療費の助成対象を、中学3年生まで拡大する考えはないか。

市長 医療費無料化拡充については、導入する方向で判断しその時期が来ているので、予算のご提案でお示ししたい。

現在、始良市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議においても協議しているところである。

小規模保育

市長 / 協議を行っている

湯川 子ども子育て支援制度が確立され、スター

トした。

本市において、少人数で預かる「小規模保育」の実態と今後の取組みについて問う。

市長 新制度においては、県が認可を行い施設型給付と市が認可を行う小規模保育等への地域型保育給付を創設し、共通の給付を行う。

昨年7月に認可外保育所や、認可保育所を有する社会福祉法人と協議を行っている。

その他の質問

○ 小学校入学時の始良市接続期カリキュラム。始良市シビックゾーンの総合交通計画



▲小規模保育の充実を願うママたち

特別養護老人ホーム

建設計画

市長／整備を進めている



田口 幸一 議員

田口 特別養護老人ホームの建設計画と待機者はどのようになっているか
また、看取りをどのように考えているか。

市長 本市には特別養護老人ホームが4事業所あり、始良地区に2事業所、加治木・蒲生地区にはそれぞれ1事業所ある。

特別養護老人ホーム2か所、合計58床の新設を計画しており、平成29年度からのサービス開始に向けて準備を進めている。待機者は214人であり、在宅18人、老人保健



▲待機者0をめざせ

看取りとは死を避けられない人に対して、身体的苦痛や精神的苦痛を緩和・軽減することともに、人生の最期まで尊厳ある生活を支援することであると理解している。

その他の質問

- 森林・林業活性化
- 市道仮屋園線
- 舗装復旧
- 国民健康保険制度

市政を

17人が



森 弘道 議員

早めの着工

市長／事業配分を勘案し推進

道路整備



▲同意書提出6年経過。整備を急げ（高樋～上場線）

森 市役所付近の道路整備と信号機の改善、帖佐グラウンドのバリアフリーについて問う。
市長 高速下のボックス蓋板設置は関係機関と検討し、対応する。
イオンタウン周辺の農道整備は周辺の土地利用形態にあった道路として、関係機関と協議して整備する。

測量設計が終了し用地買収を行う予定は4路線あり、用地買収が終了し、工事着手の予定路線は2路線である。

測量設計業務に着手した路線は、今後、工事着工年度や、地域の事業配分を勘案し、推進に努めたいと考えている。

五社神社前の信号機の改善は県警本部に要望している。

帖佐グラウンドのバリアフリー化は、設置の位置を含め検討する。

観光振興

市長／PRに努めたい

森 島津義弘公居館跡周辺の観光振興をどのように考えているか。

市長 観光については、新たなまち歩きコースの設定や、周遊観光などの立ち寄りポイントへの組入れを行い、PRに努めていきたいと考えている。

その他の質問

○ 自主財源の確保に「政策的努力をすべき」

物産館建設

工事着工の用途は

市長／30年度に建設



本村良治議員

本村 物産館建設の構想に対して、近隣住民からは不安視する声も出ている。

物産館建設の工事着工の用途をどのように考えているか。

市長 建設予定地は西之妻地区に決定した。イオンタウン進出やスマートインターチェンジの計画も含め、人の動きや交通事情等の環境の変化を見極め、平成30年度の着工を考えている。

特別支援教育

教育長／支援員の必要数の増加

本村 特別支援教育の成果と課題をどのようにとらえているか。

教育長 支援員が学級担任・教科担任と連携を図



▲特別支援教育の充実を

ることにより、児童生徒にとつて教育的ニーズに応じた支援によって楽しく安全に学校生活を送る環境が整ってきている。児童生徒数の増加に伴つて配慮を要する児童生徒数も増加傾向にあり、今後、支援員の必要数の増加が見込まれる。

その他の質問
○プレミアム商品券

基礎工事は

市長／杭工事の報告書を確認中

公共施設



吉村賢一議員

吉村 昨今、旭化成建材のデータ改ざんは居住者や利用者に多くの不安と混乱を与えている。

市公共施設の基礎工事はどのようになっているか。

市長 過去10年間の建築物の杭工事報告書について確認中である。



▲中山間部に広がる小規模な自治会

本市で旭化成の実績はないが、松原なぎさ小、消防庁舎は他社が実行しており、問題ないとの回答を得ている。

市内の地質は多くが砂質層の土質なので固い地盤に達するには、相当な深さを要する。そこで杭の摩擦力で支持する摩擦杭の工法をとっている。

小規模自治会の統合は市長／ある程度の規模がないと難しい

吉村 全自治会数が321の中で、自治会加入世帯数30世帯以下は加治木で56、始良で28、蒲生で

52、計136自治会で半分近くある。

統合はコミュニティ協議会、自治連、自治会のどこが主体で取り組むか。市長 コミュニティ協議会で課題を整理してもらう中で自治会長との話の場もでき、その過程である程度の戸数がないと運営が難しいことが分かった。

できれば100世帯以上の組織を目指して欲しい。

その他の質問

○ホテル誘致の進捗



▲市道西別府線の現状

中部地域横断道路

早期実現を図れ

市長／検討を重ねていく



堂森忠夫議員

堂森 市道西別府線の曲田口から先は、道路表面

が傷み危険性を地域から指摘されている。実施計画を示せ。
中部地域横断道路の整備計画が完成すると、新たな居住空間や地域づくりに希望が膨らむ。早期実現を図れないか。
加治木金山橋周辺道路は良く整備されたが、橋を渡り城地区への直線道

路は、表面が傷み砂利が剥き出しの状態だ。市民苦情の対応を示せ。
市長 本定例会に提案した補正予算の議決後、菖蒲谷地区方向へ130メートルを実施したいと考えている。

事業費は約50数億円と見込んでおり、国、県に対し現地説明を行い、補助事業の導入や支援を要望している。整備に向けて検討を重ねていきたいと考えている。
湧水や軟弱な場所のため暗渠排水、路床置換等の設置や年次的な整備を検討しているところである。

高台移転移住
市長／現時点では考えていない

堂森 地球温暖化のため海面は上昇中である。
高台移転移住先の開発団地の推進を図れないか
市長 土地や家屋等を考えると現時点での高台移転の推進施策は考えていない。

胃がん検診

ピロリ菌の検査

市長／先行自治体を調査



竹下日出志議員

竹下 胃がんの主な原因とされるピロリ菌除菌の保険適用が、慢性胃炎まで拡大し、胃がんの早期発見・治療に結びついた。本市のがん検診にピロリ菌の検査を考えないか。
市長 ピロリ菌に感染すると萎縮性胃炎を発症し、胃がんを引き起こしやすいことが証明され、全国で約6%の自治体が住民検診にピロリ菌抗体検査を導入している。
今後、国の動向や先行自治体を調査研究する。

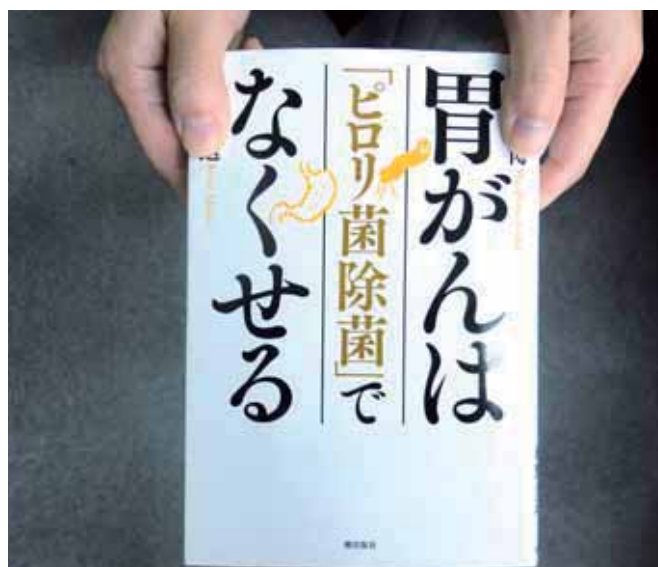
高齢者の交通安全対策
市長／交通手段のあり方を検討

竹下 交通事故死者のうち高齢者の占める割合が高くなっており、交通安全対策が必要である。
運転免許証を自主返納

その他の質問

地域で取組む「ひきこもり」の社会復帰支援

した認知症の人と家族、交通弱者への交通手段の確保をどのように考えているか。
市長 日常生活に支障をきたしている方の実態把握に努め、現在の公共交通の再編や、適正な交通手段のあり方について検討する。



▲胃がん検診にピロリ菌検査の導入を

歩道対策

市長／歩道設置計画をしている



萩原哲郎議員

萩原 スマートインターチェンジ上下線と鍋倉、触田線全線の安全性を考慮すれば、歩道整備が必要と思うが考えを示せ。市長 市道サービスエリア線と雨乞い線に幅員2・5メートルの歩道を計画している。

市道鍋倉、触田線の県道十三谷線交差点から、県道下手山田帖佐線に至る区間は約2・1キロメートルであり、そのうち歩道設置を計画している区間は、約1キロメートルとなっている。

献血協力の呼びかけ

市長／情報発信を行っている

萩原 平成25年度・26年度の本庁、加治木・蒲生支所の献血状況を示し、献血運動の呼びかけを行い、血液センターに協力できないか。

また、市民や支所の職員に今まで、どのような呼びかけを行ってきたか。

市長 平成25年度は、本庁は3回で199人、加治木は2回で65人、蒲生は3回で58人となっている。

平成26年度は、本庁は4回で243人、加治木は3回で65人、蒲生は3回で34人となっている。

血液センターや始良保健所と連携し、職員や来庁者に協力を頂いている。ポスター掲示や自治会へのチラシ回覧等やホームページなどを活用した情報発信も行っている。

その他の質問

○鳥獣被害対策とサポランドパーク始良



▲平成30年度供用開始予定の(仮称)桜島スマートインターチェンジ周辺

高校生の政治活動規制

選挙管理委員長／状況に応じやむを得ない

18歳選挙権



渡邊理恵議員

渡邊 選挙権年齢を18歳以上に引き下げる改正公職選挙法が成立した。

文科省の通知では、高校生の学校内の政治活動は規制の対象となる。

高校生を抑圧しない自由な政治活動を求めるが、どのように考えるか。

選挙管理委員長 学校教



▲樹名板の設置を

育の円滑な実施に支障があると認められる場合は、状況に応じ、必要かつ合理的な範囲内で制限または禁止することはやむを得ない。

樹名板の設置

市長／場所や樹木について研究する

渡邊 環境の変化により子どもたちが自然に触れる機会が減ってきている。

子どもたちだけでなく大人も一緒に、自然に対する興味や意識を高めるために、公園の木に樹名

板の設置はできないか。市長 公園によつては、子どもたちが木登りをして楽しむ場所や遊びの支障となるなど、設置場所や方法を慎重に選定する必要がある。

今後、設置可能な場所や樹木について研究する。

その他の質問

○高齢者の交通事故防止

少子化対策

市男性職員の育休取得率

市長 / 対象者66人中 1 人



森川和美議員

森川 国は20年度までの少子化対策大綱を決定した。

本市の男性職員の育休対象者と取得率、企業への働きかけ、また病児保育の拡大や多子世帯第3子以降の保育料の無料化は考えないか。

市長 3歳未満の子ども



▲子育て支援施設建築中（おひさま保育園）

を扶養している男性職員の育休休業対象者は26年度は66人、取得率は1・5%であり、厚労省のワークライフバランス2020年目標で男性の育休取得率13%である。

男性育休取得率の企業への働きかけはハローワーク等と連携を図っている。

今後、利用実績やニーズなど勘案しながら検討していく。

多子世帯支援、第3子以降の保育料無料化については現在「始良市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」においても協議している。

その他の質問

- 犯罪被害者支援
- 高齢者の薬飲み残し対策
- 祝日意義の再認識

空き家

崩壊寸前の空き家の早急対策

市長 / 適正管理を促す文書を発出する



峯下 洋議員

峯下 第6回議会と語る会での住民からの「山田口交差点の崩壊寸前の空き家の早急対策依頼」に対する市の対処を問う。

市長 老朽化のため倒壊のおそれがあることは認識している。

県始良・伊佐地域振興局に要望し、応急措置として防護ネットを設置した。

市としては当該所有者等に対し、市安全・安心まちづくり条例、市環境美化条例などに基つき、「適正管理を促す文書」を発出して解決を図る。

ちなみに平成26年度は



▲崩壊のおそれのある空き家

164件、27年度は98件の解決が図られた。

デマンド交通システム
市長 / さらに時間をかけて検討する

峯下 交通弱者のためのデマンド交通システムについて、研究内容と結果について問う。

市長 平成22年8月、薩摩川内市入来町に先進地視察研修を実施した。

3庁舎間を結ぶ路線バスも4月に運行開始し、

合併前のコミュニティバス等の利用状況など9月に一部路線変更や、運行時間等の変更を行い、利用者の利便性の向上を図った。

本市の公共交通の目的目標を明確にした上で、さらに時間をかけて検討する。

その他の質問

- 校区コミュニティ協議会の活動状況

総合窓口の一本化

発達支援

市長 / 今後精査する



小山田邦弘議員

小山田 今後の発達支援は地域自立支援協議会の子ども部会の活性化が課題だが、今年2回しか開かれていない理由を示せ。市長 今年度は委員の改選や日程が合わなかったことで2回だが、年度内にあと2回は開催したい。小山田 移行支援シート

の情報がうまく伝わっていない理由を問う。教育長 シートを元に学校では話し合いが持たれているが、そこで忘れられてしまうことも考えられる。小山田 今後の活用について特に指導していく。小山田 子育て支援の事業は似た名称が多い。整理統合も含め、総合窓口を設置する考えはないか。市長 子どもへの支援は多岐にわたり、課を超えてという形になっている。窓口の一本化を含めて精査していく。

小山田 施政方針にあったイオンタウン始良(仮称)への子育て支援センター設置について構想を示せ。市長 2017年オープンの2期工事施設で、事業所内保育と一時預かり事業の実施に向けて協議している。



▲子どもの将来を考えることは、まちの未来を考えること

中部横断道路

進捗状況は

市長 / 概略設計終え50億円の
大業の見込み



湯元秀誠議員

湯元 中部横断道路の実現は合併効果の象徴となる。

総合計画に明記され5か年が経過したが、進捗状況と財源の確保をどう進めるか。

市長 山田口交差点から加治木の西別府線を結ぶ3千753mで25年度に概略設計を終え概算費用50数億円を見込んでいる。財源確保が困難な状況であり今後も県とも協議を進める。

湯元 米山、弥勒までの渋滞が最近山田口付近まで続く。解決策を問う。市長 米山交差点は右折



▲車線改良や中部横断道路建設が求められる米山交差点の渋滞

車が後続車の通行を阻むため渋滞が発生している。今後県に対し、右折車線設置の改良を要望する。

巡回バス等の路線整備
市長 / 公共交通網形成計画を策定

湯元 合併前から続く旧町の各バス運行事業の相互間の乗り入れを望む強い声がある。これらを総合的に見直し、市民のニーズにあった始良市全体のバス路線網の策定をすべきである。考えを問う。市長 法改正により「地域公共交通網形成計画」を市町村の単独、共同で作成できるとなった。地域の実情に応じた運行形態や地域住民に対して利便性が高い公共交通体系の計画を策定する。

架 橋

松原地区と須崎地区

市長／実現可能な夢



新福愛子議員

ら50億円が見込まれ、大事業となるので、実現可能な夢として今後も調査・研究していく。

早朝・夜間・休日保育

市長／多様なニーズに対応

新福 早朝・夜間・休日など多様な保育ニーズへの対応と、待機児童の対

新福 始良地区松原から加治木地区須崎を結ぶ新たな架橋は、両地区の更なる発展と市民の交通便利性の向上や国道の機能補完など多くの課題解決にも繋がる。
建設に向けた計画を問う。



▲実現可能な夢・別府川架橋

策としてイオンの事業所内保育所の予定を問う。
市長 多様な就労時間や就労形態に対応できる保育環境の整備が望まれている。ファミリーサポートセンター事業の活用や29年春に開業するイオン内に設置予定の一時預かり事業の充実を図る。
イオンの事業所内保育所も協議を進めている。

その他の質問

○生活困窮者自立支援制度

税務課と連携し 通知を

市長／今後、研究していく

家賃減免



堀 広子議員

堀 収入が著しく低額で災害、失業、病気などで生活が困難な公営住宅の入居者に家賃を減免している。
適用者が少ないが、周知を工夫して詳しい説明がされているのか。



▲家賃減免制度、ご存知ですか

市長 入居時の説明と納付書類送付時に減免・徴収猶予についての文書を同封している。
堀 税務課と連携をとり対象者に通知すべきではないか。

市長 どのような形で連携が図ることができるか今後、研究していく。
ちと比較して10キログラムの単価が高い。
基本料金の控除で手数料の一部無料化はできないか。
市長 事業系ゴミが増加傾向にあるので、ゴミの一部無料化は厳しい状況である。

その他の質問

ゴミ処理手数料の一部無料化
市長／厳しい状況である

○環太平洋連携協定（TPP）
○国保基金条例の見直し

堀 始良処理センターのゴミ処理手数料は他のま

委員会レポート

始良市が誕生して5年が経過し、市議会が開かれた議会運営に議員全員で取り組んできました。議会運営委員会では、市民の負託にこたえるまちづくりを目指し、毎年先進地研修を実施しており今年度は、埼玉県朝霞市

と福島県会津若松市を視察しました。朝霞市では、議会中継によるインターネット中継システム、議会ホームページ等について研修しました。議会のあり方についての調査・検討を行うため

に、議会改革推進会議を設置し、市民にわかりやすくホームページで議案審議等の結果を公表していました。会津若松市では、議会制度検討委員会を設置し、議員政治倫理条例と市議会基本条例を制定。その中で市議会と市民・市長との関係や議員間討議・政策討論会等を明確に位置付けました。

また市民と語る会で出された要望や意見を議員全員が必要性を確認するため、また、共通認識を深めるために議員間討議を活発に行っていました。両市議会は全国の先進的な取組みであり、非常に参考になりました。これからも市議会が一丸となって、議会改革に全力で取り組んで参ります。



▲会津若松市議会にて

議会運営

埼玉県朝霞市／福島県会津若松市 議会改革

交通安全

イオン周辺道路の整備

市長／関係機関との協議



谷口義文議員

谷口 イオンタウンの工事も着々と進んでいるが、

イオンに通じる周辺道路の整備は十分か。また安全対策は確保されているのか。市長 交差点改良に伴う信号機の移設や右折車線の設置、歩道の確保等の整備、また児童生徒に対する交通安全対策を行う。オープン時には歩行者・通行車両の誘導や案内を行い、警察署による

谷口 健康づくり、健康促進に効果的な温水プールは、重要な施設と考える。全ての市民が元気になることが幸せである。設置をどう考えるか。市長 市民アンケートなどでも温水プール等の設置要望があることは承知している。今後は、全体的な公共施設の整備計画を考慮し、

立哨等の協力を依頼し、今後も関係機関との協議を行う。

温水プールの設置

市長／調査・研究していく

その他の質問

○宿泊施設
○空き家対策

また民間事業者の参入促進や民間の温水プールの連携利用なども視野に入れて、調査・研究していく。



▲安全対策が望まれるイオン交差点付近

先進地に学ぶ

総務 宮城県塩釜市／角田市 デマンド交通・自主防災組織

平成27年10月21日宮城県塩釜市に防災事業、22日角田市でデマンド交通システムについて調査しました。

○塩釜市の防災事業

平成23年東日本大震災で被災し、市民47人が津波の犠牲になりました。被災後、防災計画が見直されました。

主なものは、情報伝達手段の整備、自主防災組

織の強化、集会所への防災資機材の配備等で、避難所運営においては、運営組織に女性も参画され、女性・高齢者・障がい者等に配慮した運営が計画されています。

調査を終えて

防災ラジオは避難行動の要支援者の情報収集手段の確保として整備が必要です。

今後、市民意識をどの

ような方法で高めていく

かも、今後予想されるあらゆる災害時に避難する

時の大きな課題です。

○角田市のデマンド交通

不採算を理由に

民間バス事業者が路線を廃止、その後市が貸切バス事業者に運行を委託し、路線を引き継いだが、利用者は減少しました。

バス停から目的地までが遠く、利用したくてもできない高齢者が多数いました。玄関から目的地へ気軽に

安価で安心して利用できる交通手段として「デマンド型交通システム」が導入されました。

運営主体は、市商工会です。市は、運営費を補助します。利用料金は、地域エリアから街なかエリアは400円です。

調査を終えて

年々高齢化が進み、外出、買い物、通院などの困難者へのサービス向上のためにも、デマンド交通システムの早期の導入検討が求められています。



▲塩釜市視察風景

文教厚生 日置市 生ゴミリサイクル

平成27年11月10日、日置市の生ごみリサイクル事業について調査しました。



▲妙円寺団地ごみステーションの様子

日置市は、今年の7月から一般家庭から出る生ごみを、堆肥化する事業に取り組んでいます。

モニターの家庭に台所用生ごみ水切り器と一時保管用バケツを無償で配布し、各ごみステーションに生ごみ回収用タル（密閉蓋つき、竹チップ酵素入り）を設置し、24時間、投入できるようになっています。

いつでも投入できる点が好評で、生ごみを保管せずにすむことや焼却ご

みが軽くなる、カラスや猫に荒らされる心配がなくなったなどの声が聞かれました。

週2回、回収された生ごみは、市内の業者が破碎し、竹チップ酵素と混ぜて処理され、多くが水と二酸化炭素に分解されます。残ったものは堆肥になり、希望者に無償で配布されています。

モデル事業では、各自治会から出された生ごみを1kgあたり10円で買い取り、5万円を上限に報

奨金として支払っており、地域の活動費等に活用されています。

日置市はこの事業により、ごみ焼却施設の延命化や運営費の抑制が図られ、地球温暖化対策にも貢献できるとし、5年後の生ごみ焼却ゼロを目指しています。

本市でも取り組むべき事例であると考えます。

語る会

48人の皆さんと 活発な意見交換

始良市議会では、開かれた議会をめざして、市民の皆さまに議会の活動状況をお知らせし、皆さま方からのご意見を市政に反映させるため、「議会と語る会」を実施しています。

第6回目の「議会と語る会」は、11月6日（金）に帖佐校区・帖佐小学校体育館、7日（土）に柁城校区・加治木総合支所、10日（火）蒲生校区・下久徳いきいき交流センターで実施し、今回は48人（前回82人）の市民の皆さまの参加がありました。

各委員会で作成した資料について説明の後、市政全般にわたって意見交換がなされ参加者からさまざまなご意見をいただきました。



▲ 帖佐校区帖佐小学校体育館（参加者16人）

市政全般に対する 主な質問・意見

質問 中部横断道路を造ってほしい。

回答 事業費が多額であり、市で取り組める事業が関係機関と詰の協議をしていく。

質問 米山交差点の渋滞解消に取り組んでほしい。

回答 延長150mの右折ラインを計画しているが、協議が整っていない。

質問 福人地区の遊休農地活用を図り、地域活性化を考えてもらいたい。

回答 この農地は湿田地帯で、一部山林化しており相当な面積を非農地扱いとしている。

質問 下久徳の田の水路に、生活排水が流れ込み水が臭い。

回答 将来的にはパイプライン化を推進していく。三大字改良区の用水路は総延長約6kmあり、全体の改良を含めた調査の予算を県へ申請中である。

質問 下久徳いきいき交流センター敷地内の隧道の一部が陥没したが把握しているか。

回答 災害復旧の予算を今議会に上程している。

質問 宇都トンネル内や嶽友池周辺のゴミはひどい。対策をしてほしい。

回答 行政で巡回、点検をしていく。

質問 早馬交差点の点滅信号を正式な作動にしたい。

回答 道路の対面交通の改良や、直角交差点の改良工事が完了してからとなる。

質問 子育てに対する優しい施設整備と、待機児童対策を図れないか。

回答 施設で働く人材が見つけられない課題がある。漆校区や永原校区に児童クラブを作る取組みがある。

回答 落下防止の目的で設置されているが、水利組合などと協議検討する。

質問 鍋倉・触田線の若葉学園前付近の交通規制を強化してもらいたい。火葬場からの裏通り線の道路整備をしてほしい。

回答 交通規制や道路整備について、各委員会を通じて要請する。

質問 別府川の堤防に、地方創生の活用で桜を植栽したい。

回答 現在、県管理の河川敷は植樹できない。

質問 防災無線は聞こえない、よい方策はないか。

回答 加治木地区のみ聞き逃した方のために、再度電話で聞くことができる録音サービスを行っています。731-7749 始良市内全域ではメールによる案内を行っています。

QRコードから空メールで登録できます。



議会と 第6回



▲ 柁城校区加治木総合支所（参加者4人）

市政への提言

○米山の信号機の改良を要望する。イオンタウンがオープンすると混雑する、交差点の渋滞解消に取り組んでほしい。

回答 中部横断道路の計画もある。議会でも議論になっている。

○消防分団の器具が古く、揃っていない。また、団員の確保に尽力してほしい。

回答 消防団と議会の交流会でいろいろな要望を受けて市に伝えている。器具等の更新を推進する。

○空き地の管理に苦慮している。所有者が遠隔地で連絡が取れない。

回答 現地確認しその所有者に対し、適正管理を促す文書を出し、早期解決できるよう努めている。

議会として、条例の制定や解決策を求めている。

議会に対する 主な質問・意見

質問 農地・水保全管理みたいな材料支給補助はできないか。

回答 決算審査で共生協働社会づくりとして原材料支給制度は、必要であると議会では提言している。

質問 山田口の三叉路にある空き家を倒壊前に強制力をもって撤去してもらいたい。空き家条例の制定をしてもらいたい。



▲ 蒲生校区下久徳いきいき交流センター（参加者28人）

回答 市では、現地を確認しその所有者に対して、適正管理を促す文書を出し、早期解決に努めている。議会として空き家条例の制定を求めている。

質問 蒲生町時代は語る会はなかった。この存在意義は何か。

回答 蒲生町時代は議員が公民館長を兼ねたりしてミニ議会もどきなのでお互い不干渉とした。この会は平成24年12月

から始まり、皆様の意見を聞ける場として捉えている。

語る会当日の アンケートから

○議会、だより以上に議会在身近に感じました。もっと開催頻度を考え今後に活かしてほしい。

○参加者が非常に少ない。日時の設定、事前の周知が不足している。

○一市民として議員の方々との意見交換ができて良かった。要望等については随時経過報告してもらいたい。

○三拾町の福人地区の活用を議会として真剣に考えてほしい。

○問題提起をしているので、できるだけ全体の市勢が見える回答をしてほしい。

○意見交換の時間をもう少し長くしてもらいたい。

紙面に掲載した質問、提言は、一部を抜粋したものです。地域の課題を含め、多くの意見をいただきました。市政への意見は、執行部にしっかりとつなぎ、議会に対する意見は、今後、議会の中で議論を深めていきます。

第7回 クイズ 何まつり？



ヒント 毎年11月に催されるお祭りです
日本一〇〇.どんと
秋まつり

**クイズに答えて
図書カードをゲット**

応募方法
○官製ハガキかメール
答え、住所、氏名、年
齢、電話番号を書いて、
議会事務局にお送りくだ
さい。
「あいら市議会だより」
へのご意見、ご要望等も
大歓迎
○締切り 2月末日
当日消印有効

あて先
〒899-5492
始良市宮島町25番地
始良市議会事務局
メールアドレス
gchosa@city.aira.lg.jp

正解者の中から、5
人の方に図書カード
を進呈

ご応募いただいた方の個
人情報は、ご意見への回答、
抽せん、図書カードの発送
以外の目的には使用しません。

編集・発行責任者
議長 湯之原 一郎

編集後記
始良市も5周年を迎え
市としての基盤整備が進
み、市民歌や始良音頭と
共に大きく飛躍しつつあ
ります。議会の改革もな
され、12月議会からイン
ターネット中継が始まり
ました。市民のための議
会として親しまれ、頼れ
る議会を目指し、一同精
進してまいります。
皆様には新年をお元氣
で迎えられた事と思いま
すが、読みやすく、充実
した紙面づくりに努めて
まいります。

広報班 森 弘道

広報広聴特別委員会
(広報班)
委員長 田口 幸一
副委員長 峯下 洋
委員 萩原 哲郎
委員 新福 愛子
委員 神村 次郎
委員 犬伏 浩幸
委員 本村 良治
委員 小山田 邦弘
委員 森 弘道
委員 渡邊 理慧
委員 吉村 賢一
委員 湯川 逸郎

インターネット中継 はじまりました

インターネット環
境があればいつでも
どこでもパソコン・
スマートフォンを使
って議会の様子を見
ることができます。
ライブ中継ばかり
では無く、録画も用
意しています。



始良市公式ホームページ

行政・議会

議会

始良市議会中継



アクセスはQRコードも使用できます。

傍聴席へ どうぞ

車いす席もあります

第1回定例会は、2月18日
から3月25日まで開会予定

編集後記

始良市も5周年を迎え
市としての基盤整備が進
み、市民歌や始良音頭と
共に大きく飛躍しつつあ
ります。議会の改革もな
され、12月議会からイン
ターネット中継が始まり
ました。市民のための議
会として親しまれ、頼れ
る議会を目指し、一同精
進してまいります。
皆様には新年をお元氣
で迎えられた事と思いま
すが、読みやすく、充実
した紙面づくりに努めて
まいります。

広報班 森 弘道

編集・発行責任者

議長 湯之原 一郎

(広報班)

委員長 田口 幸一

副委員長 峯下 洋

委員 萩原 哲郎

委員 新福 愛子

委員 神村 次郎

委員 犬伏 浩幸

委員 本村 良治

委員 小山田 邦弘

委員 森 弘道

委員 渡邊 理慧

委員 吉村 賢一

委員 湯川 逸郎